

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900113		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町国府1061-153		
自己評価作成日	平成 25 年 2 月 15 日	評価結果市町提出日	平成 25年 3 月 28 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivogyoCd=2472900113-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 3 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体に病院がある為、常に医師との連絡が取れるようになっている。併設に老健施設・病院があり重度化した場合の連携体制を取っています。ホームの前に畑があり、季節の野菜を植え収穫を楽しんでいます。入居者様が、1日1日楽しく笑顔で過ごして頂けるように、個々の気づきノートを作成し、個々に合わせたケアを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で「豊かな感性と優れた専門知識を礎に、医療・福祉・保健の分野で地域に貢献し和のこころを大切に社会的責任を果たす」との理念のもと設立された医療法人運営の事業所である。特に本部病院及び隣接老人保健施設とは密に連携しており、理学療法士や栄養士との連携、定期健診、重度化した場合の対応等健康面、医療面に力を注いでいる。また、年間を通して職員研修が行われ、管理者及び職員の資質向上が図られている。事業所では地域住民、家族等交えた各種行事が計画され、職員も一体となり、穏やかな笑顔、歌、話し声溢れる生活が送られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が意識できるように、ホーム内2か所に掲示している。月1回の会議で理念に基づいたケアが出来るよう統一を図っている。	職員皆で決めた事業所理念「ゆったりとした雰囲気の中で…共に生活する。」に、サブ理念「地域との交流を大切に、信頼されるホームを目指す」を掲げ、掲示すると共に、職員会議等ミーティングの場で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の地区のカラオケクラブに参加させて頂いている。地域の行事に参加している。	近隣の方々の協力や助言を得て菜園での植え付けや収穫、運動会等での幼稚園や小学校との交流、隣接老健や姉妹ホームとの四季行事を通しての交流、更に毎月の老人会行事等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の研修会やカラオケクラブなどで認知症の介護について話が出るので、これまでの経験を生かし話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況、今後の予定を報告し様々な視点からの意見を頂き、サービスの向上に努めている。	会議は隔月に開催している。メンバーは市介護保険課職員、ふくし総合支援室職員、自治会代表、民生委員、老人会会長、利用者及び家族代表並びに法人代表(事務次長)、管理者、職員代表で構成され、事業所の現況、行事等取組み、地域の要望、意見等を協議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会に参加し、交流を図っている。運営推進会議に出席して頂き交流を図っている。	管理者は市の介護保険課やふくし総合支援室と各種申請更新手続き時等に情報交換や相談を行っている。また、市の地域包括ケア会議やサービス事業者連絡協議会及び各種研修会参加時にも交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、職員全員が理解している。これまで身体拘束の事例はなく、日中鍵の施錠はしていない。	運営規定で身体拘束をしない方針を定めている。マニュアルを整備すると共に玄関には身体拘束廃止宣言を掲示し全職員の認識を高めている。また、日中は玄関や裏口は無施錠であり、居室の窓も自由に開放できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には必ず参加し、常に職員間で話をし意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している方がいるので、職員は理解している。また、研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員、管理者、家族が十分話し合い納得した上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、隣接の老健施設でも相談・苦情等受付できるようになっている。また、面会時には必ず話を聞くように心がけている。	重要事項説明書に行政等の外部窓口を明記し、玄関には意見箱を設置している。また管理者や職員は家族面会時には話し易い雰囲気作りを心掛けている。受けた意見・要望は職員会議で検討し、支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見交換している。個々に話す機会を設けたり、ノートを活用し、意見や提案を常に出来るようにしている。年1回、面談を持つようにしている。	管理者は日々のミーティングや申し送りノート、更には毎月の職員会議で職員の意見や提案を受け止め運営に反映している。また事務次長は毎年個人面談の機会を設け、職員の意見・要望等を受け止めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、各個人の能力が給料に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に、経験年数を踏まえ参加出来るようにしている。研修報告を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業所連絡協議会や包括ケア会議に参加し、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には、必ず本人と会い話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、家族と話し合い要望困っていることを聞き、事業所ではどのような対応ができるか話し合いをしている。入居後、期限をもち面談するようにしている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員・家族と常に話し合いを持ち、利用者にあったサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援される側、する側と区別せず共に支え1つの家族として支えあえる関係づくり努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月便りを発行し近況報告している。面会時には、日々の生活を話し、本人を支えていく関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で住み慣れた場所へ出掛けたり、退所された方のとろへ出掛けたりしている。	職員は一人ひとりに寄り添い、思い出話や生活歴について話し合うことに努めている。また、住み慣れた在所周辺に利用者達とドライブに出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員かぜ利用者同士の関係を把握をしており、トラブルの内容に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、定期的に面会に行っている。また、他施設へ代わられた方は折をみて会いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、耳を傾け思いを受け止めるようにしている。強要することなく、本人の思いを大切に、家族にも確認しながら行っている。	一人ひとりのアセスメント記録や日々の暮らし、さらに家族等の情報から思いや意向の把握に努め、把握が困難な場合は職員間でも話し合い、本人の些細な表情や態度から判断し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、生活調査歴を記入して頂き、サービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事に注目し、本人の生活・全体像を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原則3カ月の見直しだが、月1回の会議でも現在困っていることはないか確認し、状態に応じて随時変更している。	毎月の職員会議でのケアカンファレンス、計画作成担当者のモニタリング、更に面会時等家族の意向確認の上、3ヶ月に1度は介護計画書を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護カルテに記入するとともに、気づきノートを作成し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意見・要望を聞きながら柔軟な対応を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で情報を収集し、地区の民生委員や自治会に方々にお手伝いして頂きながら、参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の継続を確認している。継続困難な場合は系列の豊和病院へお願ひし、2週間おきに健康チェックし、必要に応じて状態報告し、受診している。	本部病院が協力医であり、本人・家族の希望で全員の主治医となっている。事業所では看護職員が健康チェックし、主治医と連携をとり、通院等適切に対処している。また事業所の協力医の他、個々のかかりつけ医での診療が受けられる。その際通院や受診は、事業所でも同行等対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。24時間連絡が取れる体制となっており、急変時には直ぐに駆けつける体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に訪問し、情報提供や相談連携を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の指針」について説明し、事業所が対応できるケアについて説明している。家族が納得して頂いた看取りケアを今年度はできた	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」があり、契約時から本人・家族と終末期のあり方、重度化した場合の要望や事業所でできること・できないこと等、対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、周知徹底している。研修会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を隣接の老健施設と行っている。この内1回は事業所単独で、夜間を想定した避難訓練を行っている。入居者も全員参加している。	老健の防災組織に入り、年2回避難誘導等、防災訓練を実施している。内1回は事業所では夜間を想定した避難誘導訓練に置き換え実施している。	訓練や研修は現状に満足することなく、防災具の着用確認、職員一人ひとりの役割確認、個々の状態に応じた誘導等、テーマを決め繰り返し計画実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	談話室での声かけには十分注意している。特に入浴・排泄等の声かけは他の方に聞こえないように職員で話し合い徹底している。	管理者・全職員は、日々の会話や態度、トイレや入浴介助等での言葉かけ、気配りなどについて職員会議等で話し合い、実践に生かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり聞き取りやすい声に注意しながら、職員は決定的な言葉を出さずに質問形式や選択できるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、利用者に応じて時間変更し柔軟な対応が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ない部分は手伝うが基本1人でして頂き、見守りをさせて頂いている。2カ月毎の訪問理容では好きなカットにして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の茶わん・湯呑み・はしを使用し、食事は職員と一緒にしている。また、野菜の皮むき・食器拭き等出来る範囲で職員と一緒にやっている。誕生日には好きな物を召し上がって頂いている。	当日のメニューが掲示され、食堂では調理の人の動きが見え、音・匂いが漂い、楽しみを醸し出している。食事中はBGMが流れる中、職員も同じテーブルを囲んで話し掛けや会話が聞かれ、和やかな雰囲気である。また、誕生会の食事や偶の外食も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する老健施設の献立をもとに調理している。個々に合わせた食事量になるよう管理栄養にアドバイスを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している。週2回は義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンをチェックシートにより把握し、トイレ誘導を行っている。可能な限り、布パンツへ移行している。	一人ひとりの排泄記録と本人の表情や行動から理解に努め、さり気ない声掛け等配慮した誘導により、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘の方には運動を照りいれたり、水分を見直したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴して頂いている。希望者は毎日入れる。入浴のタイミングは個々に合わせて配慮している。	毎日(日曜除く)午前中を原則に入浴できる態勢にあり、週3回の入浴を支援している。拒む人には体重測定を兼ね誘ったり、また浴槽に入りやすい「車付き回転いす」を備えたり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活状況を把握し、日中でも休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員全員が見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の力が発揮できるよう、食器拭き・洗濯たたみ等お願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の関わりの中で、利用者が行きたいところ聞き、計画を立てている。天気が良い日は、周辺の散歩に出かけている。	日々声掛けしては、玄関先での外気浴を兼ねた団欒、菜園弄りをしたり、近くの散歩に出掛けたりしている。また、行き先を募っては利用者の在所周辺や四季の花見等ドライブに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本事業所で管理しているが、外出の際には本人で管理できる方には使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室と食堂が同じフロアーなので、食事を作っている様子がわかり、鏡越しに利用者の様子わみて対話している。季節感がわかるように、フロアーの飾りをしている。	オープンキッチンの食堂に続く談話室にはソファが置かれ、一角に畳コーナーがある。南側の窓からの採光もよく明るい。棚には季節の花や縫いぐるみ等置かれ、また、廊下も含め壁には各種行事時の寛いだ写真、手作り貼り絵や日めくりも貼られて、温かみのある雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には、1人がけの椅子、3人がけの椅子畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具が置けるようにし、本人が落ち着いて暮らせるように支援している。家族の泊まりも自由である。	洗面、クローゼット及びベットは備え付けられている。広く清掃の行き届いた室内には、テレビ、使い慣れた日用品や写真、縫いぐるみ等置かれ、壁にはカレンダーや絵などを貼り、居心地良さを工夫している。また、施設等から移った方には以前のレイアウトを参考にベッドの位置等配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて適宜見直し変更している。能力が発揮できるように環境を配備している。		